

(3)-2 関西国際空港の存在・運用に係る環境監視計画の変遷

監視項目	測定・調査項目	調査範囲	調査点	2期供用開始後(H19.8)～		現行(R0.6末時点)	備考
				調査頻度	実施期間		
騒音 飛行経路・高度	航空機騒音	大阪湾沿岸地域及び 飛行経路周辺地域	数箇所	11地点(常時) 10地点(定期)	将来にわたり実施	常時観測 年1回程度	将来にわたり実施
	低周波音	航空機の低周波音	大阪湾沿岸地域	年1回程度 (当面年1～4回)	運用開始3年後まで	年1回程度 (H28.3変更)	平成29年度から当面の間 運用最大時の3年後まで
大気質 象	塩素酸化物(二酸化窒素-一酸化窒素)、 浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、 炭化水素(メタン・非メタノ)、 風向・風速	空港島対岸部	1地点	常時測定	運用最大時の3年後まで	H24年度末で終了 (H25.3変更)	運用最大時の3年後まで
	二酸化硫黄 塩素酸化物(二酸化窒素-一酸化窒素)、 浮遊粒子状物質、風向・風速		2地点			H22.7末で終了 中止(H22.3変更)	
水質	透明度 水温、塩分、pH、DO、COD、 T-N、T-P、クロロフィルa、SS	空港島周辺海域	4点	年4回(四季)	運用開始3年後まで	H22.3調査で終了 (H22.3変更)	当面の間実施(R3.7変更)
		内部水面海域	3点			年2回 (夏季、冬季)	当面の間連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、 北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、 着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において 年4回(四季)で再開
底質	泥温、強熱減量、粒度組成、pH、COD、 硫化物、T-N、T-P	空港島周辺海域	4点	年2回 (夏季、冬季)	運用開始3年後まで	H22.3調査で終了 (H22.3変更)	当面の間実施(R3.7変更)
	植物プランクトン 動物プランクトン	内部水面海域	3点	年4回(四季)		年2回 (夏季、冬季)	当面の間連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、 北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、 着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において 年4回(四季)で再開
海域生物	底生生物	空港島周辺海域	4点	年4回(四季)	運用開始3年後まで	H22.5調査で休止 (H22.3変更)	当面の間実施(R3.7変更)
	漁業生物	内部水面海域	3点	年3回 (春季、夏季、秋季)		年2回 (夏季、冬季)	当面の間連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、 北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、 着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において 年4回(四季)で再開
陸生動物 (鳥類)	鳥類の飛来・生息	1期及び2期空港島内	定点及び調査 ライン	3年ごとに月1回	運用最大時の3年後まで	3年ごとに月1回	航空機年間離着陸回数が大幅に増加(20万回程度など)した段階で再開 (令和元年度より休止)
	タカ類の渡り	空港島周辺海域	調査ライン	3年ごとに年4回		3年ごとに年4回	
	タカ類の渡り	タカ類の渡りのルート	1点	3年ごとに年1回		3年ごとに年1回	